

おっみネット

●発行日 / 2014年3月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

自分で作る喜び...
農業をもっと身近に

農業

NPO法人
百菜劇場

2

NPOのIT活用術
NPO法人 碧いびわ湖

6

世間よし〜企業の社会貢献〜
長浜葬祭(有) ソニアホール長浜

5

特集★OHMI視点①
子どもに寄り添い
生きる力を育てる
不登校、発達障がい等への支援を通して

元気印 NPO ③

イベントでまちを盛り上げ
若者が地元へ帰るきっかけに

まちづくり

高月にぎやかし隊 ⑥

元気印 NPO ②

多文化共生社会の輪を
もっともっと広げたい

国際交流

甲賀市国際交流協会

4

子どもに寄り添い、生きる力を育てる

不登校、発達障がい等への支援を通して

子どもは、小学校から高校へと大きく成長していく過程においていろいろなことで悩み、乗り越え、成長してきました。しかし今は、子どもたちを取り巻く環境が昔と大きく変わってしまい、悩み・困難を乗り越えられずに苦しむ子どもが増えたように思います。今回は、今の子どもたちを取り巻く環境、そして抱えている問題から子どもたちの生きる力について考え、また、その力をつけるための支援活動を行っている団体をご紹介します。

子どもの発達課題と支援を考える

つながって生きるということ

立命館大学文学部、応用人間科学研究科教授 春日井 敏之 さん

すべての子どもたちは、かけがえのないいのちと幸せになる権利をもってこの世に誕生しました。この「いのちの働き」は、子ども自身の成長や回復といった機能だけではなく、かかわる人々のいのちと響きあって、その人々の成長や回復を支える働きを持っています。親は、誕生したわが子から、この子のために生きようというエネルギーをもらうのです。私たち大人は、子どもを支援しようと考えますが、実は子どもを助けることで助けられ、励ますことで励まされているのではないのでしょうか。

また、「生きる力を育てる」とよく言

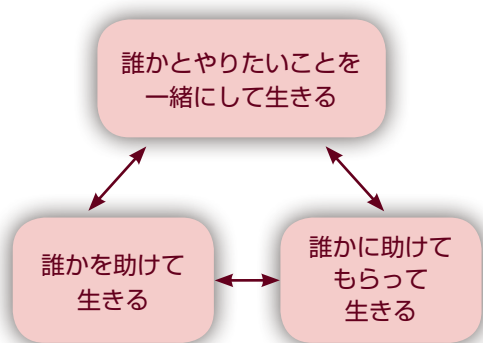


図1 つながって生きる力

われますが、これは何を指しているのでしょうか。ここには、二つの意味が含まれています。一つは、現実の競争社会を勝ち抜いて生きる力であり、「孤

立して生きる力」を意味します。もう一つは、困ったときはお互い様の関係を築いて生きる力であり、「つながって生きる力」を意味します(図1参照)。私たちは、子育てや教育を通して、つながって生きる力を育てたいと願っているのではないのでしょうか。つながって生きる力は、具体的には、次のような生き方を通して育っていくと考えています。①誰かを助けてつながって生きる、②誰かに助けてもらってつながって生きる、③誰かとしたいこと面白いことを一緒にしてつながって生きる。この時、気が付いたら頑張っている自分がいて、一緒にやっていた人たちが友達になっていくのです。

不登校や発達障がいの支援を考えるときにも、これらの視点は重要な意味をもってきます。社会的自立は、一人で孤立して生きることではなく、つながって生きるプロセスを意味しているからです。子どもたちは、不登校や発達障がいによる困りごとを抱えながら、大人にSOSを出しているのです。この時、誰にどのような助けを求めているのかを考え、子どもの言動の



春日井敏之(かすがい としゆき)さん

京都府公立中学校に社会科教諭として赴任し、20年余り勤務。2001年より立命館大学文学部教育人間学専攻に。専門は臨床教育学、教育相談論。1990年代より、不登校の「親の会」などに関わり、現在「登校拒否・不登校問題全国連絡会」の世話人等を勤める。京都、滋賀、大阪の学校現場の教師等とのケース・カンファレンスも長年継続している。著書は、『思春期のゆらぎと不登校支援』『出会いなおしの教育-不登校をともに生きる』『よくわかる教育相談』(以上、ミネルヴァ書房)など多数。

意味を自らに問うことが、子どもの心に寄り添うことなのです。同時に、こうした子どもたちは、配慮や支援の対象という受け身だけの存在ではありません。逆に、家族や友達など、誰かのために何かをしたり、誰かと楽しいことを一緒にしたりするなかで、不登校から回復したり、人間関係をつくっていったりするからです。

家庭や学校で求められる不登校や発達障がいの支援とは、繊細な子どもを改造して鈍感な子どもにするようなことではなく、また、子どもを受け身の存在にとどめておくことでもありません。子どもが、不登校をしたことを自分のなかで意味づけながら、繊細さを大事にして社会とつながって生きていくこと、さらには、自分の抱える課題や困りごとについて、周囲にSOSを出しながら社会とつながって生きていくことを、家庭、学校、地域、専門機関などが応援していくことなのです。



代表●根津 暁子(ねづ あきこ)
設立●2004年(2006年に法人格取得)
会員●30名
連絡先●近江八幡市北之庄町401
TEL : 0748-32-2820
E-Mail : info@100seeds.net
URL : http://www.100seeds.net/

楽しく土とふれあって 安心安全な 食のネットワークづくり

西の湖に近い水郷地帯で農薬・化学肥料を使わない野菜とお米を栽培しているのはNPO法人百菜劇場の廣部さんと根津さん。本格的に農業を始めたのは3年前から



▲畑で農作業中の根津さん(左)と廣部さん(右)

ですが、お二人の食へのこだわりに賛同した地元の農家の人たちや大学の先生の力添えもあって、今は110アールの田畑でたくさんの種類の野菜やお米を作っています。

畑にはたくさんの生き物が暮らし、様々な食物を生み出している、いわば畑は生き物の舞台であるというのが百菜劇場の原点です。土とふれあう楽しさや自分の食べるものを自分で作る喜びをたくさんの人に体験してもらって、農業をもっと身近なものに感じてもらいたい、そのためには先ず自分たちが農業を体験し伝えていこうという思いで溢れています。

活動としては、農作業のかたわら、土づくりから学ぶ農



▲農の連続講座で野菜の植え付け体験。美味しく育て！

の連続講座、野菜づくりや米づくりの農業体験、食の知恵を学ぶ食の講座、地域の里山保全と資源利用(放置竹林の整備と竹材の活用など)など、とてもパワフルでブログでもわかりやすく紹介しています。そのため、常日頃からセミナーへの参加や専門家からの指導、専門書での研究は欠かせません。

百菜劇場が目指すのは、消費者と生産者を結ぶ安心安全な食のネットワークづくりです。自分たちが得た信頼を賛同する生産者に広げ、多くの

消費者に畑へ集まってもらうために発信しつづけます。

現在、自分たちが作った野菜でおかず味噌やケチャップ、ドレッシングなどの加工品づくりにも取りかかっていると話すお二人は頼もしくて、今後の活躍がとても楽しみです。(おうみネットサポーター 梶山まき)

不登校経験者の声

不登校、自殺未遂を乗り越え「生きることの大切さ」を知る

不登校、自殺未遂を乗り越え、今を生きる子どもたちに「生きることの大切さ・ありのままの自分でいい」ということを、歌を通して伝える活動をしている山崎雄介さん(NPO法人マイペースプロジェクト)にお話を伺いました。



▲NPO法人マイペースプロジェクト 山崎雄介さん

幼稚園時代、園で自分の居場所を見つけられず、集団行動にも馴染めず、あまり感情を表に出さない子どもだった山崎さん。小学3年生の時には体が痛くなるなどの不調が現れ、5年生の時に不登校になりました。

山崎さんは親の笑顔が大好きな子どもでした。でも、不登校児である自分の存在が親から笑顔を奪っていると自分を責め、親と関わらないよう毎日部屋に引きこもっていました。自分さえ我慢すれば親は笑顔でいられると思い、そばに居てほしい思いと一人での寂しさをずっと我慢していました。

そんな時、自殺のニュースをテレビで見ると興味を持った山崎さんは、突発的に親の睡眠薬を取りました。睡眠薬がなくなっていることに気付いたお母さんが山崎さんの部屋に行くと、山崎さんは手にある大量の睡眠薬を飲もうとしていたところでした。お母さんはすぐさま山崎さんを強く抱きしめ、「お願いだから生きて」と号泣しながら言いました。この母の一言で感情が溢れてきて、今まで伝えられなかった思いを自分の言葉で伝えることができたと言います。

この一件後、お母さんと山崎さんは、「お母さんが自分のために生き人生を愉しみ、子どもと一緒に楽しい思い出をつくる」というカウンセラーからのアドバイスを大切にしました。また、今の仲間である同じ不登校児と過ごすようになり、毎日のように外に遊びに行き、人目を気にしなくなりました。お互いがお互いの事情を詮索しない、そして同じ思い(誰にも言えない思い)を持っている友達と過ごすことで、山崎さんはさらに前向きに生きていくようになりました。

「子どもたちには、苦しんでいた頃の自分に『大丈夫』、周りの人たちに『ありがとう』と思えるようになってほしい。そのためにも生きてほしい。悩んでいる子どもにとって『会話がなくても一緒にごはんを食べること、何気なく笑えること、普通に日常を送ること』が何より幸せなことです。」山崎さんからのメッセージです。

■NPO法人マイペースプロジェクト

自ら不登校だったメンバーが歌を通して悩みを持った人に小さな勇気と光を与えることを目的に活動しています。
URL : <http://mypace-project.org/>

NPO法人滋賀大キッズカレッジ&地域教育支援センター

気付かれにくい学習障害、早期支援が二次障害(不登校、暴言、反抗など)を防ぐ

NPO法人滋賀大キッズカレッジ & 地域教育支援センターは、学習困難及び学習障害(以下、学習障害)のある子どもの支援を行う学習室を開いています。同団体代表の津島務さんにお話を伺いました。

◇通っている子どもたちが抱えている問題

子どもたちには学習障害があっても、知能発達には問題がなく、多くの場合普通学級で学校生活を送っています。学習障害が原因で勉強につまづいても周りの大人が気付くのは難しいそうです。誰にも気づかれず、誰にも手助けをしてもらえず勉強嫌いになってしまふ。そして、周りに分かってもらえないという葛藤が原因でトラブルを起こすことがあります。

親は、学校でのトラブル、学校に行きたがらない、進学できるのかなど様々な不安を持って相談に来ます。そして検査を受け診断が出たとき、多くの方が自分のしつけ方が原因ではなかったとほっとするそうです。生まれ持った障害が無くなることはありませんが、適切な支援を受け症状が良くなることを願って親はこの学習室へ通わせています。

◇子どもたちの変化

個人差はありますが、通い始めて1、2年経つと、ADHD(※1)の



▲マンツーマンによる学習支援

子どもは授業中教室を飛び出したりせず落ち着いて行動でき、アスペルガー症候群(※2)の子どもは人の話を聞き求められた行動ができるようになります。学習障害に関しては、まず勉強嫌いが無くなり、症状についても時間は掛りますが少しずつ良くなっていきます。

◇早期支援の重要性

「本来、学習障害を克服するための力は自然と身に付いていた力。それが現代では身に付けられない環境になっている。発達障害(学習障害含む)がある子どもの本来の性格は、まじめ、頑張り屋、優しいのに、対人関係等のトラブル(二次障害)が原因で暴力的になったりもする。この二次障害を予防するためには、早い段階から適切な理解と支援が大切。そして、学校生活が終わる時に自己認識力(出来ないことを伝える力な

支援活動の紹介

NPO法人山科醍醐こどものひろば

自己肯定感を高め未来への希望を持ってほしい

京都市山科区と伏見区醍醐地区で活動しているNPO法人山科醍醐こどものひろばは、「子どもの貧困対策事業」として貧困問題、一人親、課題を抱えている子どもの夜の生活支援を行っています。同事業担当の矢野真里加さんにお話を伺いました。

◇子どもたちを取り巻く環境

参加している子どもは親の帰りが遅く夜一人で過ごす子、発達障害のある子、貧困問題を抱えている子などで、学校を休みがち、または行くことができない子が多いです。すべての子どもに共通する課題は、何事にもすでに諦めを感じている自己肯定感の低さ。缶切りでさえやったことがないと「私にはできない」と決めつけてやってみようと思いません。

親は、周りに頼れる人がいない、地域からの孤立、さらに貧しさ(経済的、精神的)が加わると毎日を生きることに



▲子どもたちの放課後の居場所づくり「はっとタイムえんぴつ」

で精一杯になり、子どものことまで気を配ることが難しいのが現状です。このような環境下の子どもにとってこどものひろばは、安心して過ごせる家庭以外の居場所となっています。

◇自分の将来像のモデル

1か所で1日に受け入れる子どもは1〜2名、子ども1人にサポーター1人がつき勉強やゲームをしたりと過ごし方は子どもの自由。例えば、夕飯準備の時に子どもが漫画を読み始めても注意はせず、サポーターと一緒に漫画を読み始めます。このように子どもと接する時には、子どものありのままを認め受け入れる、良い所を見つけ伝えることを大切にしています。ありのままの自分を認め受け入れてもらう体験は、自己肯定感を高めることにつながります。

この活動には約40名のサポーターがおり8割が大学生です。よく親の背を見て子は育つと言いますが、年の近い学生サポーターは子どもたちの将来像のモデルとなっているようです。いろいろな背中を見て、いろいろな大人がいること、どんな大人にもなれるということを知ってもらうことが大学生起用の狙いです。

◇自分の将来に希望を持つ

同事業を担当し、子どもたちと一緒に時間を過ごしている矢野さんは、「子どもたちは、少しずつ学校

知っ得インフォメーション [滋賀県内 子育て相談]

【子どもと親の悩み相談】

- 滋賀県子ども・子育て応援センター
- ①電話相談(こころんだいやる)土・日・祝日を含む毎日、午前9時~午後9時 TEL: 077-524-2030, 0570-078310
- ②面接相談 開設場所: 滋賀県庁東館3階(大津市京町四丁目1番1号) 月~金(祝日を除く)、午前9時~午後5時(先に電話でご予約ください。) TEL: 077-528-3563

【不登校の相談】

○滋賀県心の教育相談センター TEL: 077-524-4300

【発達障がいの相談】

○滋賀県発達障害者支援センター

- ①南部センター TEL: 077-561-2522
- ②北部センター TEL: 0749-52-3974

【いじめの相談】

○滋賀県いじめ問題対応専門員 いじめ相談窓口 県立学校・地域統括担当 TEL: 077-524-7500

代表●西本 信也(にしもと のぶや)
設立●2005年4月 会員●313名
連絡先●事務局長 大河原佳子
甲賀市水口町水口5676 自主活動センターきずな内
TEL/FAX : 0748-63-8728
E-mail : mifa@mx.biwa.ne.jp
URL : http://www.biwa.ne.jp/~mifa/



“多文化共生”への想いを、 未来に、世界に、 発信します！



▲「世界まなびじゅく」参加児童が世界の楽器演奏を披露—未来の多文化共生社会の担い手です！

「甲賀市国際交流協会(KIS)」は2005年4月に設立されました。活動レベルの高さには定評があり、その中でもキラリと光るいくつかの取り組みを紹介しましょう。

まずは、小学生のための国際理解講座「世界まなびじゅく」です。「KIS」が目指している「国際化に貢献できる人づくり」すなわち「キーパーソンづくり」の中核的事業として、世界各国の遊びや料理、ブラジル人学校との交流など異文化に直接触れることによって、小学生の目線で地球市民としての“多文化共生”精神(こころ)の醸成を図るのが狙いです。2013年度は「五感を使って世界を感じよう」をテーマに、2回講座を開催し身体や心など全体で世界を感じる活動に取り組んできました。

特筆すべきは、最大のイベント「国際交流フェスタ」(2013年12月8日開催)への取り組みです。テーマは、「Share Koka, Share the World ~甲賀の魅力を世界に~」。“甲賀の魅力を発信し共有することで、国際交流を一層深めよう！”との想いをメッセージに込めて、さまざまな世代や立場の人、多様な文化や国の人々によって企画、運営されてきました。まさしく、“Think globally, Act Locally”精神(こころ)の発露を垣間見るとともに、「KIS」がキーワードとして掲げる「ネットワークづくり」、「キーパーソンづくり」、「地域づくり」具現化への大きな一歩が踏み出された大会ではなかったでしょうか。

これらの活動を支えるのは、多くの会員や熱心なボランティア(30人)のみなさんと広報紙(KIS通信)の編集・作成をはじめ各事業の立案・運営等に奔走する事務局員の方々。そしてなによりも、事務局長大河原佳子さんが、「多文化共生社会実現への輪が、もっともっと広がって、大きな実を穂らせてくれることを願っています。」と、将来ビジョンを熱く語ってくれたのが印象的でした。

(おうみネットサポーター 荒木 威)



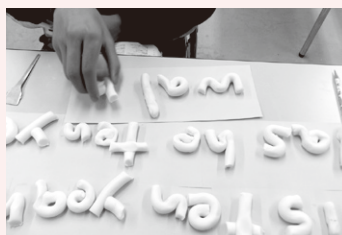
▲「フェスタ」大会委員長の開会あいさつ—「甲賀の魅力を世界に発信します！」

DATA

NPO 法人滋賀大キッズカレッジ&地域教育支援センター

大津市平津2-5-1 滋賀大学教育学部207研究室
TEL/FAX : 077-511-9589
E-Mail : s_kids_college@nposkc.com

- ◆対象：発達障害のある子ども(相談は大人も対象)
【発達・教育相談】随時受付
【学習室】
毎週土曜日。子ども1人に対して1人支援者がつき滋賀大キッズカレッジの独自の理論に基づく対応。主なスタッフは滋賀大キッズカレッジの研修を受けた教員、大学院生など。
【コスモ】
毎週木曜日。2013年度から始めた不登校児に特化した居場所と学習支援の場。
- ◆相談・学習室の利用料：有料



▲英語学習障害の粘土を使った学習

ど)を身に付けると、個々に適した職業に就くこともできる。」と、窪島さんは子どもたちの将来を考えた早期支援の重要性を強く訴えられました。

※1 ADHD：注意欠陥・多動性障害
※2 アスペルガー症候群：対人関係の困難を中心とする、自閉症の一つのタイプとする見方があるが議論がある。

DATA

NPO 法人山科醍醐こどものひろば

京都市山科区竹鼻地藏寺南町2番地の1
TEL/FAX:075-591-0877
(火曜～土曜 10:00～17:00)
E-mail : kodohiro@gmail.com

- ◇支援内容
＜楽習サポートのびのび＞
【トワイライトステイ】
商店街の空き店舗を活用した「子ども生活支援センター」で、夜、ひとり過ごす小中学生たちが平日17時～21時まで、学生サポーターとマンツーマンで過ごします。
【通学合宿(ナイトステイ)】
近隣の小学校と連携して、夜、ひとり過ごす小中学生たちが平日17時～翌朝の登校まで学生サポーターたちと過ごします。
- ◆利用料：有料。但し家庭事情により補助制度有り
※その他学習支援、余暇支援も実施



▲みんなで夕飯を囲むための準備中。

やフリースクールに行けるようになったり、つらい時に素直に周りに頼れたり甘えたりできるようなります。ここで過ごした時間、サポーターとの関わりが自己肯定感を少し

でも高めたのだと思います。自分の人生に前向きになって、未来に希望を持った子どもたちの姿は、サポーターたちの自信や原動力にもなっています。」と話してくださいました。

「子どもの生きる力」について、教育実践者、当事者の声、支援活動の紹介と様々な面から考えてみました。そして、すべてに共通したことは「つながること」。親と心からつながり、同じ不登校仲間とつながることで人生に前向きになった子ども。また、課題を抱えた子どもたちは、支援者の大人とつながることで課題解決が進み自分の人生を歩んでいく。

相手が困った時には助け、自分が困った時には助けをもらい、そして一緒に何かをして喜びを感じる、この「つながって生きる力」を身に付けることが今の子どもたちには大切です。

市民活動への期待

NPO活動と資金計画

NPO活動を進めていく上で一番頭を痛めるのは資金繰りではないでしょうか。

私は昨年、大津市市民活動センター公募事業で「女性の起業を支援するセミナー」として5回にわたり、起業に興味のある女性や起業して間がない女性を対象に講座を開催しました。

皆さん大変意欲的でしたが、参加者同士の交流会や金融機関の方の講義の中で次のような問題点が明らかとなりました。どんなに思いが強くともそれを形にするためには、他者に説明できるような資金計画を立て、それに向かって行動しなければならないということです。どのようなお客様を対象にし、いくら売上げを確保するのか、それによって経費がまかなえるのか、またそのためにどのような営業活動をすべきか等です。この計画と行動力こそが事業を続ける力であると考えます。

NPO活動においても社会的ニーズから始めたものの資金繰りに行き詰ってはせっかくの思いも残念な結果になってしまいます。会費や補助金・寄付金収入に頼るだけでなく、講座の参加費や図書の販売など、自立して収入を得ることはNPO活動を継続させ発展させる大きな原動力になるはずだと確信します。



人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

税理士法人なぎさ中央会計

税理士 川辺 恵子さん

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

長浜葬祭(有) ソニアホール長浜

滋賀県長浜市神照町147番地 TEL: 0749-63-3365 FAX: 0749-63-6161
URL: <http://www.sonia-hall.co.jp>

利益を地域へ還元することが自社の存在意義

長浜市、米原市で葬祭業を営んでいる長浜葬祭有限会社は、葬祭ホールでの「生命のメッセージ展」開催や犯罪被害者の支援活動をしている団体の支援自販機を敷地内に設置しておられます。代表取締役社長の西濱一さんにお話を伺いました。

「生命のメッセージ展」とは、NPO法人いのちのミュージアムが犯罪や交通事故で亡くなった方の写真、遺品等を等身大オブジェに添え展示する活動です。開催準備は半年かかり、会場装飾は社員の方々が一つひとつ心を込めて手作りをし、会場警備には近隣警察署からの協力も得ました。当日来場者は約1000名、来場者の中にはいのちの大切さを再認識し自殺を思い留まった方が3名もおられました。

なぜ葬祭場で開催したのかについて西濱さんは、「葬儀場は大切な人との最後のお別れの場、中には起こらなくていい事故で亡くなった方もいます。ここで毎日のように被害者ご家族と加害者の姿を見て、悲しい事故を無くすために会社として何か貢献



▲平成22年10月開催「生命のメッセージ展」

したい、そして、いのちの重さを直接感じている自分達が広く伝えるべきだと思って開催しました。」と話されました。

そのメッセージ展に参加していたNPO法人おうみ犯罪被害者支援センターは、犯罪被害者の支援活動をしている団体です。同展で西濱さんと出会い、収益の一部が同団体に寄付される自販機の設置場所を探していると話したところ、支援の一助になればと西濱さんは二つ返事で設置を快諾されました。第一号自販機が設置されてから3年、現在第二号設置計画が進んでいます。

「当社は地域密着企業です。心を込めたお見送りで得た利益を地域に還元していく、そして還元することでまた心が帰ってきます。」と、西濱さんは地域への想いを話してくださいました。長浜葬祭有限会社の地域への還元活動は、太陽光パネルの設置、市内社会福祉協議会へのAED寄贈など着実に広がっています。
(淡海ネットワークセンタースタッフ 牧野利花)



▲NPO法人おうみ犯罪被害者支援センター支援自販機



代表●隊長 弓削 雅外(ゆげ まさと)
設立●2009年
会員数●12名程度
連絡先●フェイスブックページ：
「高月にぎやかし隊」で検索

楽しいイベントで まちを盛り上げたい！ 「帰ってきゃんせ」

高月町の商工会青年部から「総務省の補助金があるから、まちの活性化事業をやらないか？」と声を掛けられたのがきっかけで、2009年同級生が中心となって集まり、高月にぎやかし隊が結成されました。

卒業後遠くに就職していても祭りにだけは帰ってくる同級生も多く「できれば他の町にない、ぶっ飛んだものを」と20代～30代のメンバーが考えたのが、高さ11メートルの玉入れでした。



▲盛り上がる高さ11mの玉入れ大会

高月町といえば十一面観音。その11にちなんだそうです。雨森の竹を切って支えとし、商工会で玉入れ用のカゴを作り、電気屋さんの高所カーゴを使って設置。隊員の強みを生かし苦勞の末、特製のカゴが出来上がりました。

第1回開催時には「入るわけがない」と逆に面白がられ200人の参加者で大盛り上がり。また、冬には地元小学生と中学生全員の願いを書いた紙を貼った花火を打ち上げ、JCとの連携で7000個のキャンドルを灯す「高月あかりまつり(旧・冬



▲玉入れ参加者と一緒に

花祭)」も開催しています。今年3月開催時のキャッチコピーは「夜景作りに帰ってきゃんせ」。隊員の願いが込められています。今後の課題は5年目の今年で補助金が終了すること。隊長の弓削さんは「活動が続けるため、長浜市の協働提案事業にも応募しています。まちを出て行ってしまおう若い子たちが『地元ってこんな楽しいところだったんだ』と帰って来るきっかけになるようなイベントを、湖北一円の団体と連携しながら繰り広げていきたいです」と夢を語ってくれました。(おうみネットサポーター 幡 郁枝)

NPOのIT活用術！

NPO法人 碧いびわ湖

- ◇ブログ <http://aoibiwako.shiga-saku.net/>
- ◇共同購入サイト <http://aoibiwako.ocnk.net/>

つながりを作るツールの一つとして 地道な情報発信を心がける



▲ブログ



▲共同購入サイト

滋賀県で1970年代に始まった「せっけん運動」を引き継ぎ、環境事業に取り組んでいるNPO法人碧いびわ湖。環境にやさしい買い物の実践や身近な自然とつながる暮らしの提案、子育て世代のコミュニティづくりなど、多岐にわたるその活動をブログで紹介しています。2012年には共同購入サイトも立ち上げ、ケータイやスマホ、パソコンなど使いやすい環境から共同購入に参加できる体制も整えました。常務理事の根木山さんは「活動の様子を地道に紹介し続けることで、協力者や団体からの信頼感が高まる」と、その効果について語ります。「資金力がない分、NPOは人とのつながりを作るコミュニケーションが大切になってきます。そのためのツールとして有効に活用しています」という根木山さんの言葉には、IT活用のポイントが凝縮されています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

ふり 瀬田降て志賀の夕日や江鮭 あめのうお

6期生 西岡 信夫(にしおか のぶお)
グループ：ビワマスを琵琶湖のシンボルに
育てる

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

「あめのうお」は、ビワマスのこと。夏の季語。琵琶湖固有種・鮭の仲間。県民認知度は、約10%。「琵琶湖の宝石、トロより旨い」と評価されている。

ビワマスに魅せられた私たちのグループは、南湖でもその雄姿を見たいと、卒業の年から、毎年大津市坂本の太宮川に、3千尾の稚魚を放流し、来年3月に10年目を迎える。7年目待望の雄1尾、河口から300メートルまで遡上。が、段差に阻まれ斃死。その3年前に放流した5センチの稚魚が北湖で過ごし、60センチに育ち、再び太宮川へ奇跡的に還ってきた。京都新聞では、環境サイドの切り口で、あのクニマス※の記事と2大特集が組まれた。ビワマスの生活史には、琵琶湖・河川・山に至るまで、全ての環境に影響される。

一方、私たちの小さな活動は、地元自治会、老人会、子供会、地元漁業組合、日吉大社の方々のハートに確実に届き、今では、日吉大社大祭前の、定例行事に育っている。今後、私たちがサブになり、地元中心の活動に移行するであろうが、この精神こそ、未来塾の目指す方向と理解している。

私の思いは、「琵琶湖にどっぷり浸かり、琵琶湖の中から、しっかり県内を見つめる。」そんな視点から、未来塾での活動において課題、テーマを見つけていただきたいと。



※野生絶滅種のサケ目サケ科の淡水魚

寄付

未来ファンドおうみへ
ご寄付ありがとうございます。

2014年1月8日に、循環型社会創造研究所様より、50,000円のご寄付を頂きました。

この度の貴重な浄財は、「びわ湖の日基金」に組み入れ、琵琶湖の環境保全に関わる実践活動および調査活動への支援を行っていくための元本としていきます。

イベント

未来ファンドおうみ助成事業
2013成果発表会

未来ファンドおうみ助成事業2013(事業期間2013年4月～2014年3月まで)の採択を受けた団体の成果発表会を行います。おうみNPO活動基金助成団体2団体、びわこ市民活動応援基金助成団体2団体、びわ湖の日基金助成団体2団体、積水化成品基金助成団体1団体が発表します。また、「淡海のつなぐ、ひろく、みらい」賞受賞団体の活動発表も行います。

助成申請をお考えの方、市民活動にご関心のある方、ぜひご来場ください。

◆日時：5月18日(日)午後

◆会場：県民交流センター(ピアザ淡海)

207会議室

※詳細につきましては、当センターHPに掲載いたします。

相談

NPOのみなさん
ご相談は当センターへ。

淡海ネットワークセンターでは、NPOの運営、資金集め、会計・税務などのご相談を受け付けております。

また、必要に応じ、専門家も紹介させていただきます。悩んだ時には、ぜひ当センターをご活用ください。

◆受付時間：午前9時～午後5時

◆受付日：火曜日～日曜日

※月曜日、祝日はお休みです。

◆相談料：無料

◆その他：

出張等に対応できる職員が少ない日もあります。事前に当センターまでご連絡いただき、日程の調整をお願いします。

イベント

今、求められる
地域人材を考えるフォーラム

今回、地域づくりに関心のある方や県内で地域人材育成や地域活性化に取り組んでいる方々を対象に、滋賀県との共催でフォーラムを開催します。基調講演のゲストに「里山資本主義」の藻谷浩介氏を迎え、「人口減少社会の中での地域づくり」にとって必要な視点・方策等を学んでいきます。ぜひご参加ください。

◆時期：3月9日(日) 13:00～16:30

◆会場：滋賀県庁舎新館7階大会議室

◆参加費：無料

◆プログラム：

基調講演／日本総合研究所調査部主席

研究員 藻谷浩介氏

シンポジウム／地域人材についてのパネル

ディスカッション

※詳細については、ブログをご覧ください。

<http://bit.ly/1mVztMU>

募集

おうみ未来塾第13期塾生募集説明会
あなたも「地域プロデューサー」を目指しませんか！

「おうみ未来塾」は、市民活動やNPOが、地域運営の一翼を担う時代となった今、新しい地域課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

「地域プロデューサー」とは、地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための運動や事業をおこなうことができる人であると考えています。

今回、第13期塾生募集にあたり、説明会を開催しますので、ご参加をお待ちしています！

「地域プロデューサー」に興味のある方、地域の課題解決に主体的に取り組みたいとお考えの方、是非ご参加ください！

◆3月28日(金) 18:30～20:00

米原市米原公民館 研修室3-B

◆3月30日(日) 10:00～11:30

今津東コミュニティセンター会議室2

◆3月30日(日) 15:00～16:30

県民交流センター 302会議室

◆4月4日(金) 18:30～20:00

守山市民交流センター1階交流室

◆4月5日(土) 10:00～11:30

県民交流センター 302会議室

◆4月5日(土) 15:00～16:30

あいこうか市民活動・ボランティアセンター多目的室

編集後記

農業の初心者であった百菜劇場さんの食に関する様々な活動を、多くの人たちが支えてくれています。安心安全な食のネットワークづくりへの熱い思いが伝わるからだと思います。これからも積極的に人脈を広げて、大きなネットワークができることを願っています。(おうみネットサポーター 梶山 まき)

取材というより、多文化共生社会実現のノウハウを勉強する機会をいただきました。「KIS」事務局長の大原さんをはじめ「鹿深deござれ」(未来塾12期生)のみなさん。そして「フエスタ」で声をかけさせていただいた多くの方々との出会い。貴重な体験をありがとうございました。(おうみネットサポーター 荒木 威)

今回の取材で、にぎやかし隊の方とお会いするまで高月町といえば、キムチしか知らなかった私でした。若い世代の方がイベントを楽しんで企画し実施できる町って、本当にいいなあと思います。田舎育ちの私には息苦しく感じるが多かった故郷ですが、こんな仲間が地元でがんばってくれたら「帰ってみようか」と思ったかもしれません。夢は大きく湖北全体へ！(おうみネットサポーター 幡 郁枝)

淡海 89

●2014 春号●



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801

大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440

■FAX 077-524-8442

■<http://www.ohmi-net.com>

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間／9:00～17:00

休館日／月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌 「おうみネット」 掲載広告募集中!

★発行部数10,000部

★県内外の配布先約2,000カ所

★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!



歴史と文化、そして豊かな自然に彩られた古都大津

びわ湖ホールなどの文化施設に近く琵琶湖のほとりで過ごす
くつろぎのひととき

宿泊、パーティーをはじめ各種会合にご利用いただけます。



ホテルピアザ
びわ湖

TEL 077-527-6333

URL: <http://www.hotelpiaza.com/>